

広島大学における BEVI-jの活用・結果

－ SGU事業実施における留学プログラムの質保証 －

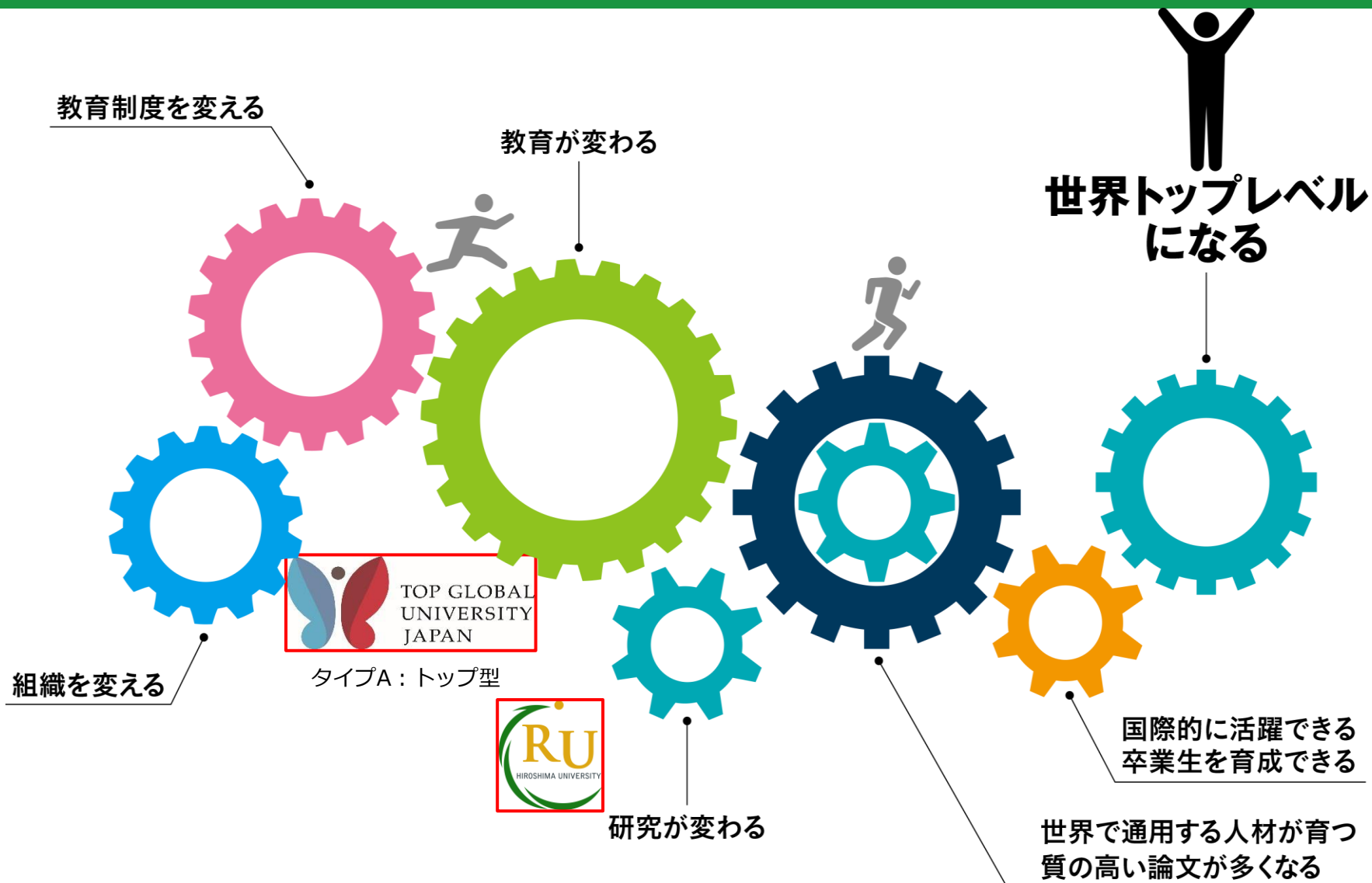
Hajime Nishitani
Vice President(International)
Professor of Law
Hiroshima University

December 2016
第8回広島大学SGUセミナー
JASSO/文部科学省



広島大学

1 SGUにおける位置づけ＝質保証・グローバル人材力





1 SGUにおける質保証・グローバル人材力



世界トップレベルになる



Ⅱ: 教育制度を変える

・秋入学の英語で完結する学位プログラム

・新学科/副専攻

・DDP/JDP

・3+1:4+2プログラム

・クォーター制の導入(平成27年)

・階層型TA

・到達目標型プログラムの質保証

教育制度を変える

I: 組織を変える

・教員組織と教育研究組織の分離: 学術院

・パフォーマンスのモニタリング: A-KPI導入

・個人評価の処遇への反映

・ライティング・センター(図書館)

教育力・研究力に優れた教員の採用

・国際公募

・テニュア

Ⅲ: 教育が変わる

・国際通用性を確保した教育プログラム

・留学プログラムの拡大

・学習するプログラム体系の明確化

・学習内容の明確化

・外国人教員等・外国語による授業数の増加

・SERUコンソーシアムに加盟しているUCバークレー校を中心とする海外大学による外部評価

組織を変える

Ⅳ: 国際的な活躍

・英語力強化

・グローバル化人材テスト (BEVI)

・JASSOシンポ (3月)

－ 広大主催シンポ (12月8日東京)

(JASSO共催・文部科学省後援)

国際的に活躍できる

卒業生を育成できる

世界で通用する人材が育つ
質の高い論文が多くなる

2 質保証・グローバル人材テスト (BEVI-j)



<https://www.bevi-j.com/>
<https://www.bevi-s.com/>
<http://www.thebevi.com/>
<http://www.thebevi.com/japanese>

- ・平成27年度 JASSO 海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)シンポジウム
「海外留学による学びの向上一留学の学習成果分析(2016年3月東京)」
- ・ 広島大学主催シンポジウム(JASSO共催・文部科学省後援)(2016年12月8日・東京)
上記シンポジウムのフォローアップ・シンポジウムとして開催

短期留学プログラムの増加に伴い、プログラムの検証や評価, 分析などが求められている。(質保証)

- ・効果的な短期留学プログラムの実施の必要性
- ・複数の短期留学プログラムまた従来型の長期プログラムの評価・改善
- ・参加学生のアウトカム等の客観的測定の必要性
- ・客観的データに基づく大学本部・財政当局への説明の必要性

文科省・グローバル人材育成推進事業 プログラム委員会にみる資質・能力論（平成24年度）

◆ 事業の目的

若い世代の内向き志向を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るべく、大学教育のグローバル化を目的とした体制整備事業を支援

◆ グローバル人材の3要素（定義）

I 語学力・コミュニケーション能力

II 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

III 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

(IV) **追加資質・能力（中核人材）**：幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークとリーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等

◆ 期待される大学の取り組み（審査の観点）

- 教育課程としての魅力的な
・ 養成しようとする**グローバル**
・ 卒業時での学生の**具体的**
- 教員のグローバル教育力
- 学生の海外留学を促進す
- 語学力向上のための一体
- 推進体制・評価体制等の整備

- ・ **どのように測定するか**
- ・ **客観性の確保**
- ・ **アンケート（満足度調査）**
比較可能？？？

3 BEVI-j をどのように使うか

①教育またプログラムの質向上(どの経験、コース、プログラム等がどのような影響(eg異文化許容性)を与えたのか、またなぜ与えることができたのか)

←プログラム内でT1/T2、17スケールを利用

②学習プログラムの相互評価(留学、多文化コース、一般教育、研修プログラム/ワークショップ、サービスラーニング等)

←プログラム間でT1/T2、17スケールを利用

③学習プロセスの理解(誰が、何を、なぜ、どのような状況で学習するのか)

④学習目標の促進(どのようにして自己、他者、より大きな世界の理解向上につながったのか)

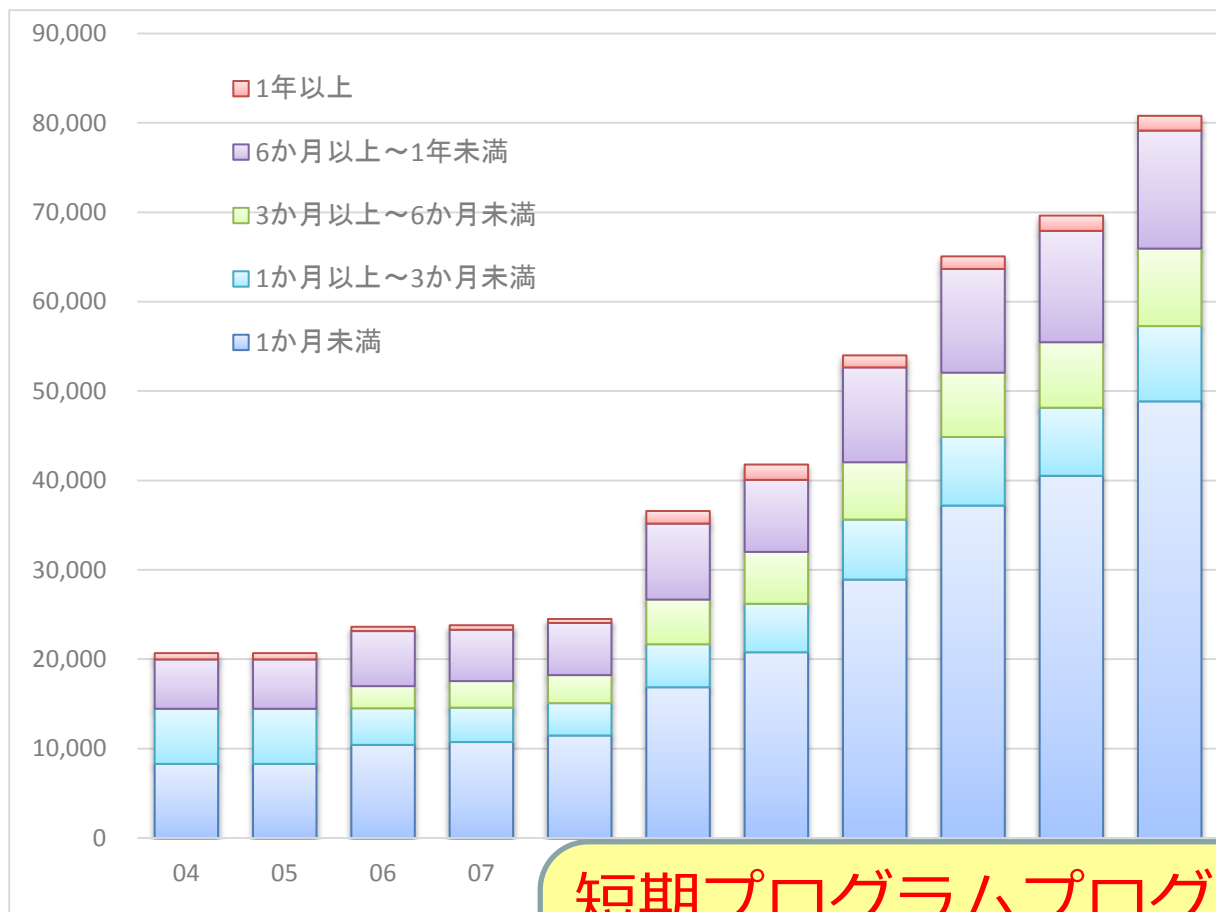
⑤成長と発展の促進(個人、グループ、および組織)

⑥研究(人々は、どのように、なぜ、そしてどのような事情のもとで異なった文化に、より「オープン」になったのか)

⑦組織のニーズ(スタッフ/リーダーシップ訓練)

⑧評価及び認証のため(目標と成果を関連づけるため)

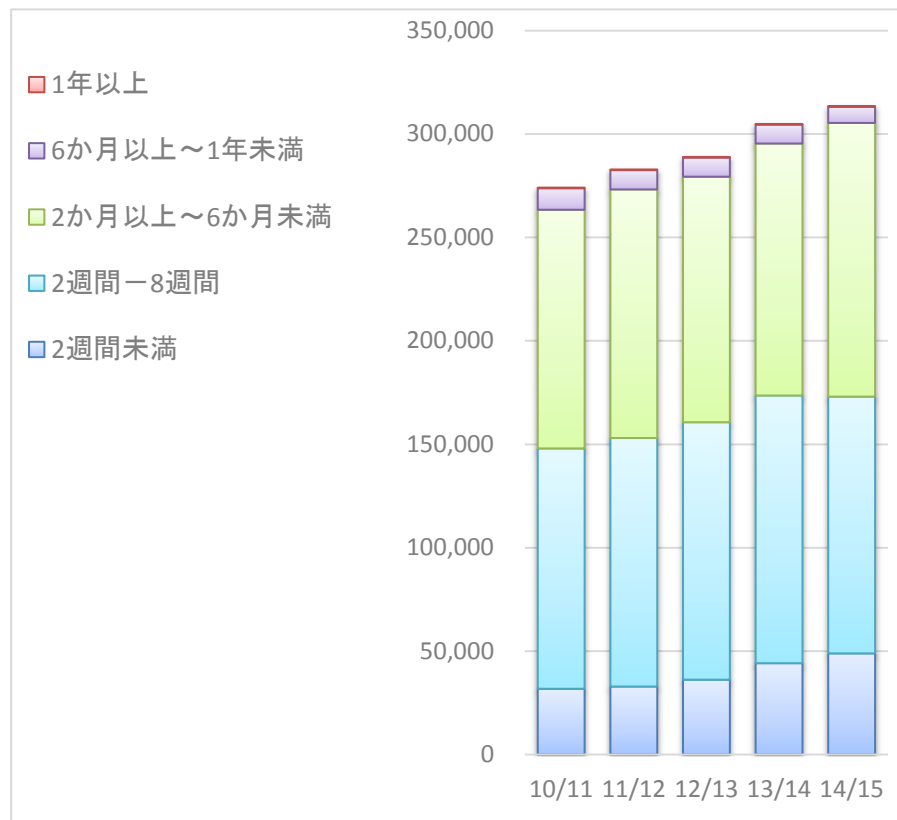
4 留学期間：前提1：短期-長期(JASSO)



JASSO協定等に基づく日

短期プログラムプログラムの増加
特に、短期であるため、保証の必要性
同時に、短期であるため、質保証も可能

4 留学期間：参考（米国・欧州） Study Abroad

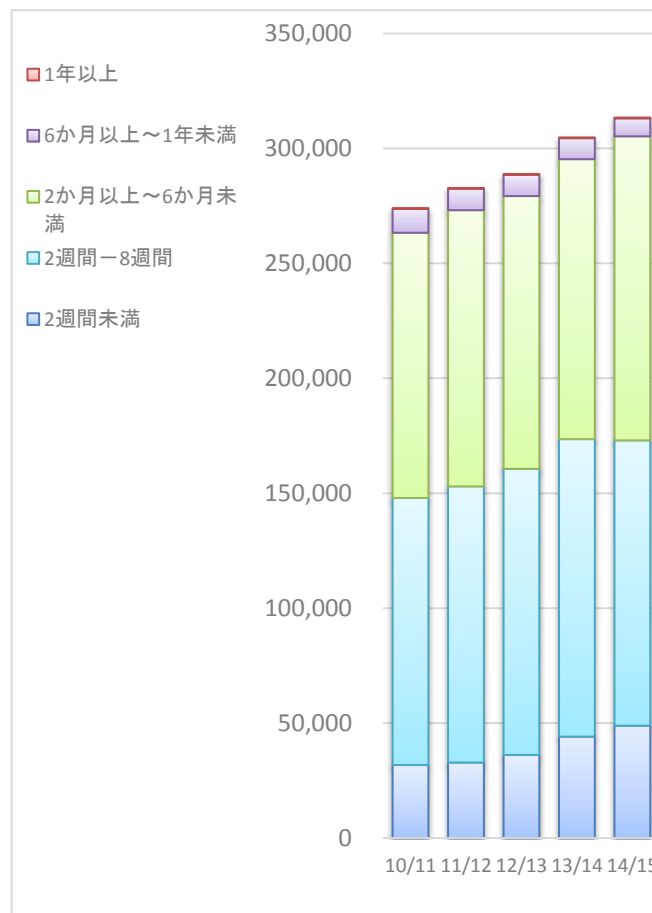
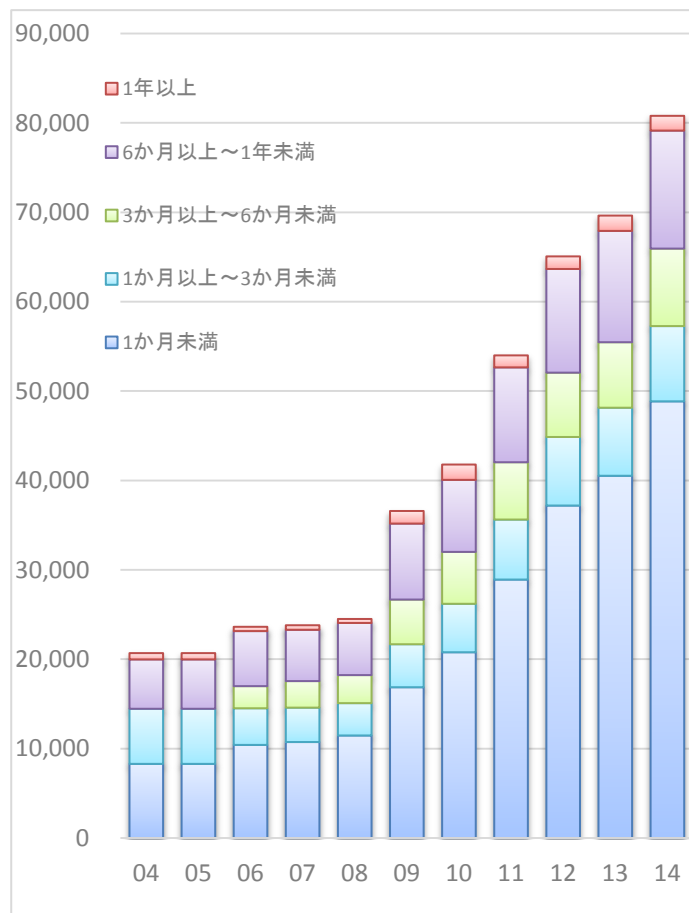


Open Doors



エラスムス学生ネットワーク
ESN survey

4 留学期間：比較



Barriers: Job Market

Timing for Study Abroad

New Graduates “only”
 3rd Year Winter: Enrolment
 4th Year April-: Interviews

Humanities/
 Social Science
 (700/Year)

1st
 Year

2nd
 Year

3rd
 Year

4th
 Year

Master

Education/
 Engineering/
 Science
 (1,300/Year)

1st
 Year

2nd
 Year

3rd
 Year

4th
 Year

Master

Medical/
 Nursing/...
 (500/Year)

1st
 Year

2nd
 Year

3rd
 Year

4th
 Year

2,500 in Total

5 留学プログラムの拡大:前提2

START Programme

- 海外経験のない新入生対象
- 平成27年度（'15）はこれまでに最大の応募者数、応募倍率は約2倍
- 平成28年度（'16）前期応募者数200名（説明会約300名）
- 派遣先
英語圏・欧州 米国・オーストラリア・NZ＋スペイン（5プログラム）
アジア インドネシア・ベトナム・タイ・台湾（5プログラム）

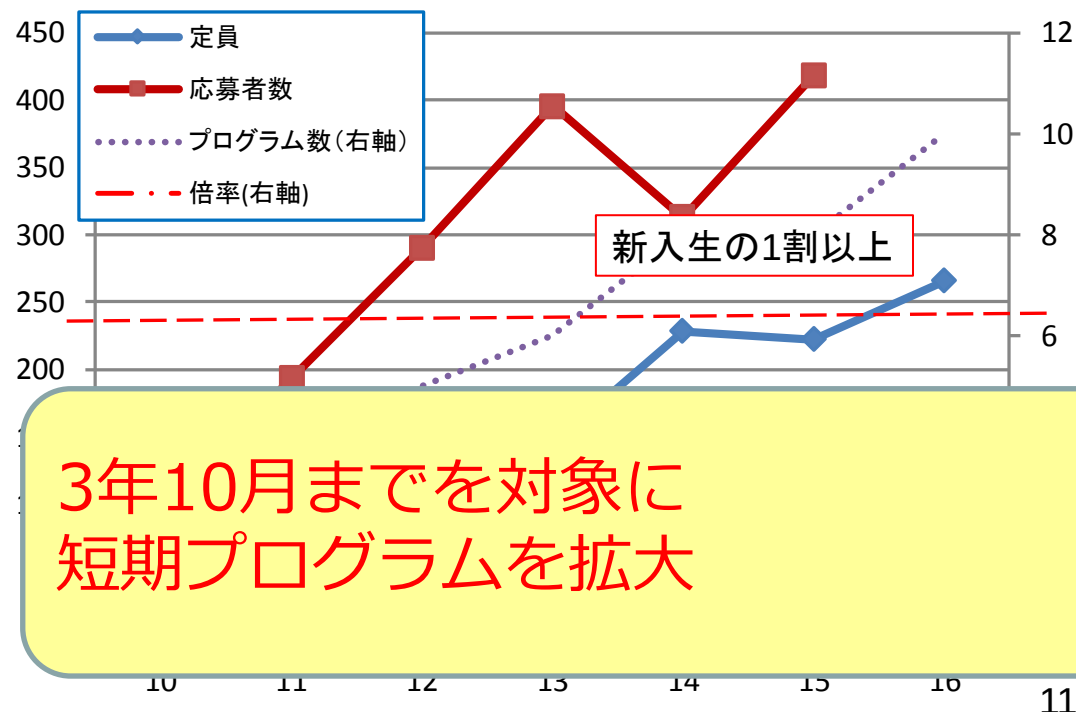
書類審査

- 志望動機書(20点)
- 英語外部試験(20点)
- GPA (20点)

面接審査

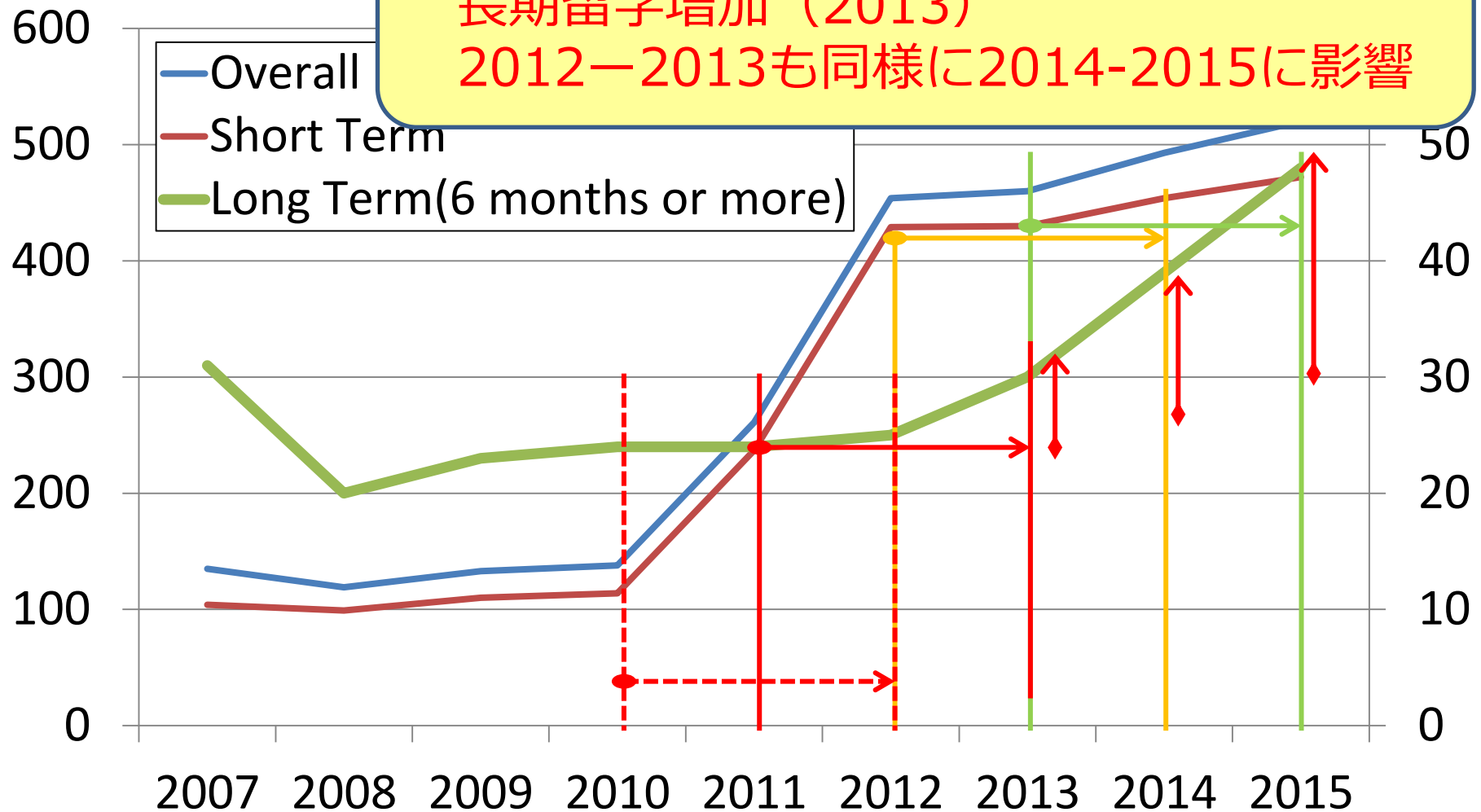
(20点)

最終決定



Trends

短期プログラムを拡大（2011）→2年後
長期留学増加（2013）
2012-2013も同様に2014-2015に影響



6 質保証：プログラムが学生を変えたか

BEVi-jの利用：送り出し（事前事後にBEVi-j実施）

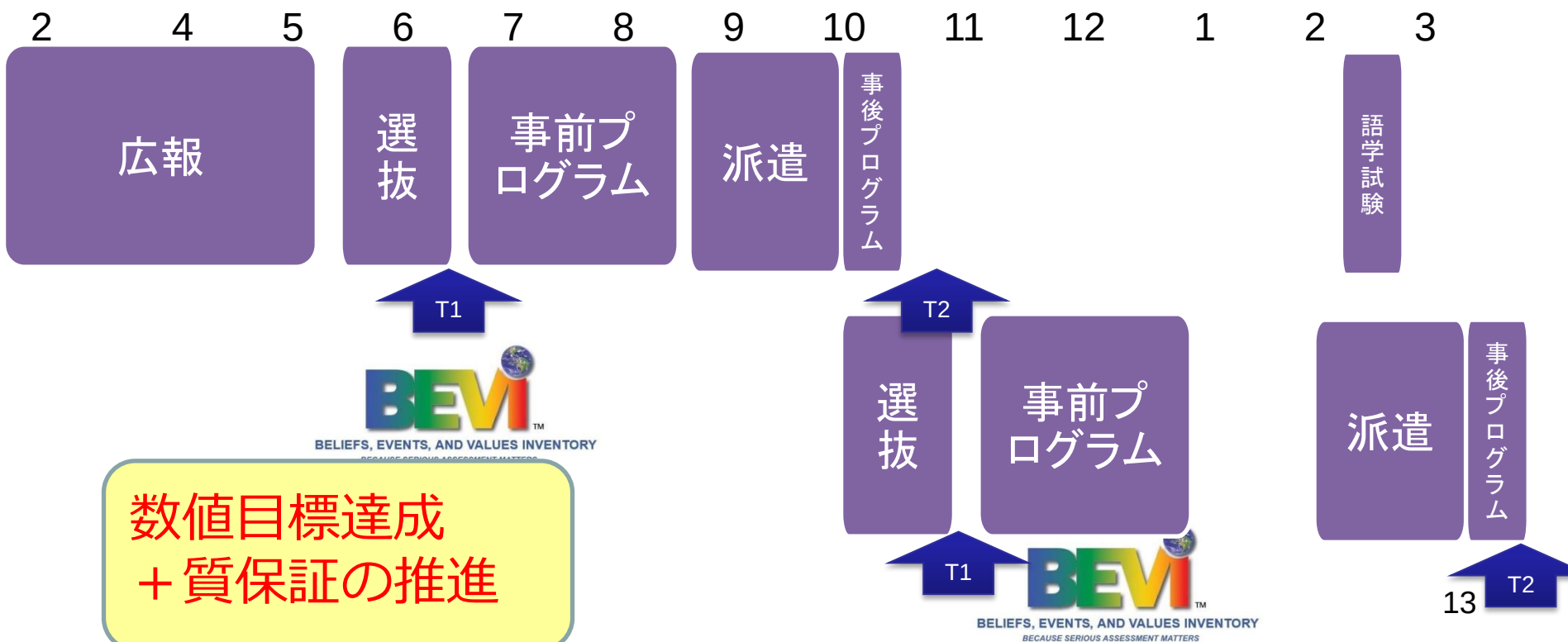
START Programme（2週間）T1/T2のデータ

・派遣先

英語圏・欧州 米国・オーストラリア・NZ＋スペイン（5プログラム）
アジア インドネシア・ベトナム・タイ・台湾（5プログラム）

大学世界展開AIMS（6ヵ月）現在送出しのT1のみのデータ

大学世界展開CLMV諸国（6ヵ月）来年度から

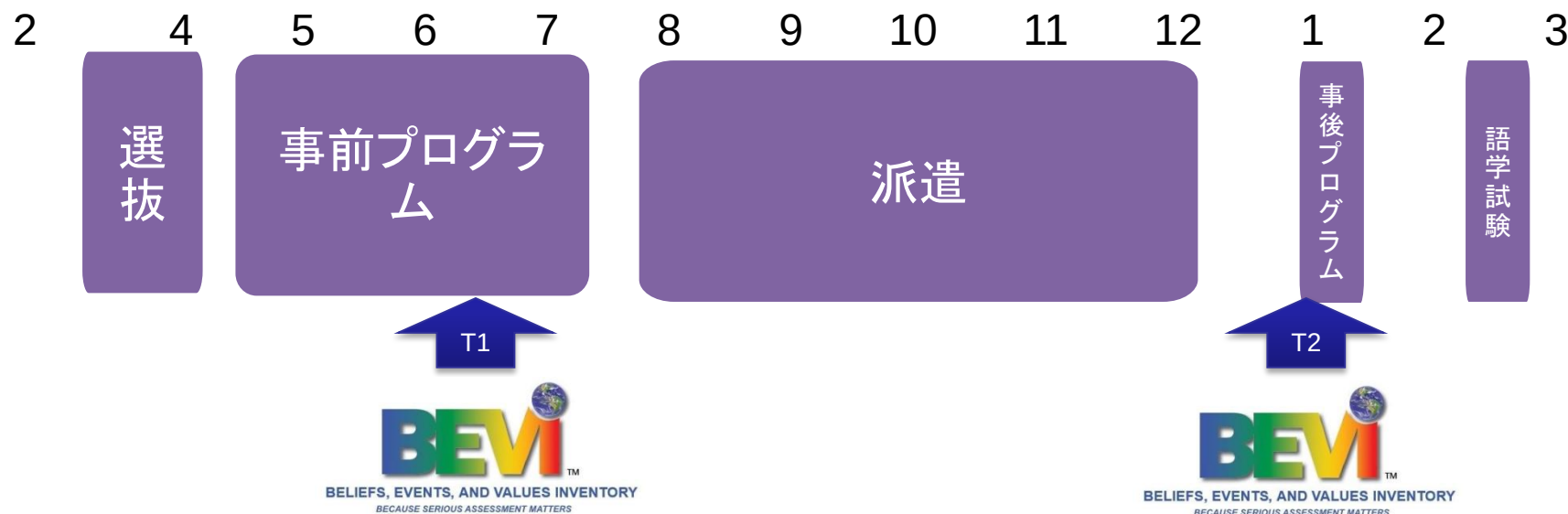


6 質保証：プログラムが学生を変えたか

BEVi-jの利用：送り出し（事前事後にBEVi-j実施）

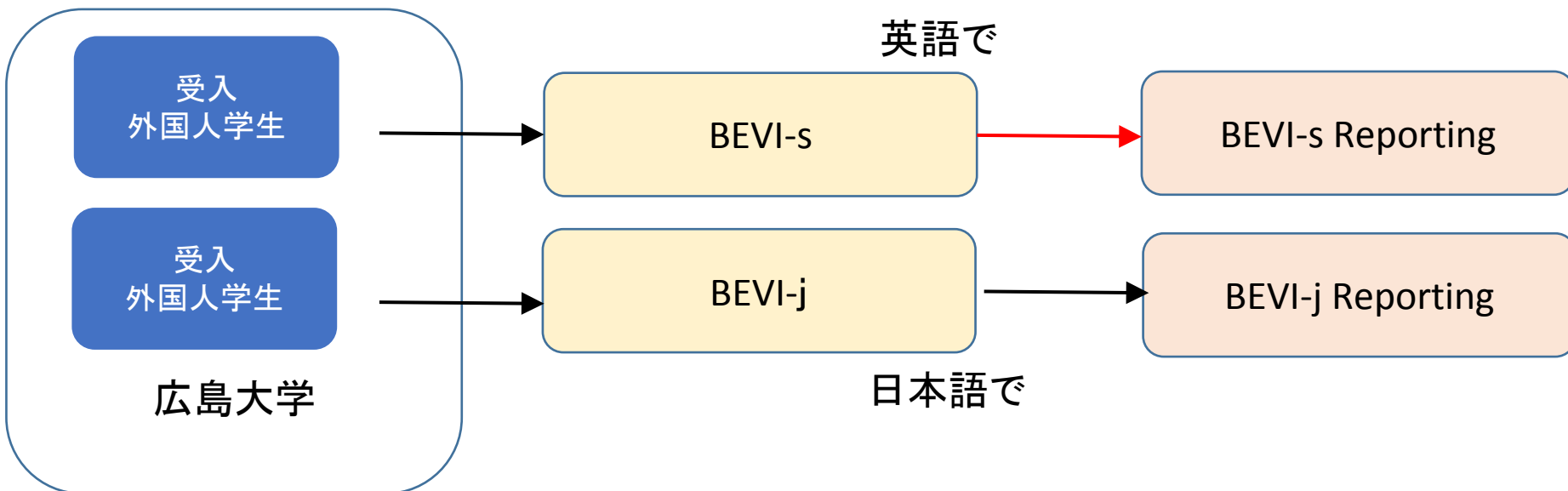
大学世界展開AIMS（6ヵ月）現在送出しのT1のみのデータ

大学世界展開CLMV諸国（6ヵ月）来年度から

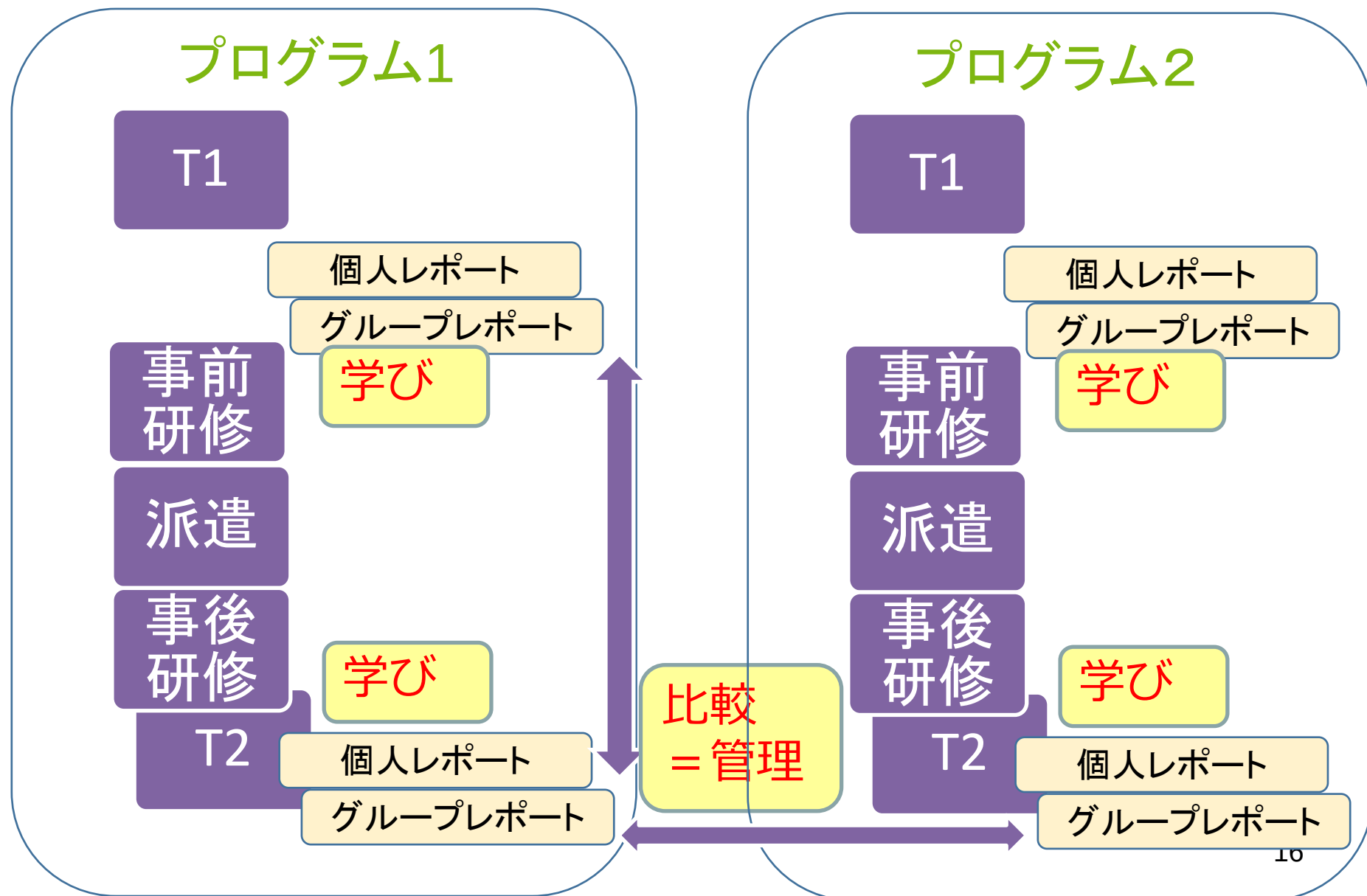


6 質保証：プログラムが学生を変えたか

BEVi-jの利用：受入（英語テストを利用可能）



7 BEVI-j 使用事例



8 個人レポートの例



あなたとあなたの世界観:

Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI)™ の個人レポート

User: b163788@hiroshima-u.ac.jp Date of Test: 11/28/2016

Beliefs, Events, and Values Inventory (BEVI)は、1990年代初めの開発開始以来、人々が、自分自身、他者また世界一般について持つ信条や価値観がどのようなものか、またそうした信条や価値観がどのように学習、個人の成長、人間関係、集団や組織の一連の行為そして人生の目標の追及に影響を与えうるかについての認識を深める手助けをしています。このレポートの情報はあなた個人についてのもので、自分自身、他者そして広い世界をどのように認識しているかという情報が含まれています。しかしながら、BEVIはあなたの記入した回答の正解・不正解や真偽について何ら判断をするものではなく、またそのようなことができると主張するものでもありません。むしろ、このレポートは、私たち全員に共通する、人生の課題に向かい合うことを手助けするように設計されています。BEVIについて質問がある場合は、大学、留学プログラムのBEVI担当者までお問い合わせください。また、ibavi@ibavi.orgまで直接お問い合わせいただいても結構です。最後に、以下のレポートを読むにあたり、あなたは既に、Web上又はレポートに先立って別途提供される同意書にサインすることにより、下に掲げる3つの条件に同意していることに注意してください。

8 個人レポートの例

学び・ふりかえり

関連して、あなたは、人生は「自分の考え次第」なのか、また実際の問題に対処する最良の戦略は単純に「プラス思考で考える」ことなのか疑問に思っているようです。 場合によっては、このような方法が功を奏しますが、あなたは人生や生活に対する「ポジティブな」アプローチというものに疑問を感じる傾向があるようです。「自分の問題に責任を持つのは自分だけである」という考え方の利点は、目の前のいかなる課題にも取り組む力が湧いてくるということでしょう。しかし、この世界観の欠点とは、このように考える人はとりわけ「障害を乗り越える」能力を有していない人のことを、必ずしも理解できるわけではないということです。これに関してもう一点、「自分が送る人生は全て自分の責任である」と信じること(あるいは信じないこと)の影響はどのようなものかということについては考える価値があります。

自分の行動の動機を理解する

私たち人間は、意味づけをする生き物です。そうしているとすら気づかずに、「物事がこのようになっている理由」の説明を探し求め、そうするための十分な情報がない場合ですら因果関係に基づく結論を導き出します。このような説明は、私たち人間が何故このようなことを行うのかということから、世界一般で何故このようなことが起こるのかということや、人生、生き方の最終的な目的まで、多岐にわたります。時として、私たちは、「物事がこのようになっている理由」について結論を導き出していることや、これらの意味づけのプロセスが、いかに日常生活の中で一般的、自動的、無意識的に行われており、また避けがたいものであるかということを認識すらしていません。 BEVIへのあなたの回答からすると、「物事がこのようになっている理由」について、しばしば考えているようです。

自分自身や自分の思考、感情、欲求を知る

人よりも感情的かつ繊細な人がいるということに、あなたは気付いているかもしれません。 これはあなたに非常によく当てはまるようです。 感情がいかに人間の存在の中心を占めているか、少し考えてみてください。感情を持ち、同時に他者の感情を正確に解釈し、理解する能力(「心の知能指数」と呼ぶ人もいます)は、あなたの個人的な人間関係から仕事の世界に至るまで、人生のあらゆる局面を乗り切るためのカギです。感情がなくては、何が好きで何が好きでないのか、自分や他者がどのような人間か、自分はどのような人間になりたいのかを理解することは非常に困難になるでしょう。

当該事項の説明文

スコアにより個人別

8 グループレポートの例



BEVIレポートの解釈



表と指標の解説



BEVIのスケールの解説と解釈

レポート・表・指標の解説

Hiroshima University

T1: 08/23/2016 - 09/20/2016

N = 19, Highest Optimal N = 6, Middle Optimal N = 5, Lowest Optimal N = 4

Group 2: T2 09/22/2016 - 11/28/2016

N = 25, Highest Optimal N = 7, Middle Optimal N = 5, Lowest Optimal N = 5

8 グループレポートの例

Profile Contrast

Lowest Optimal Background-Domain

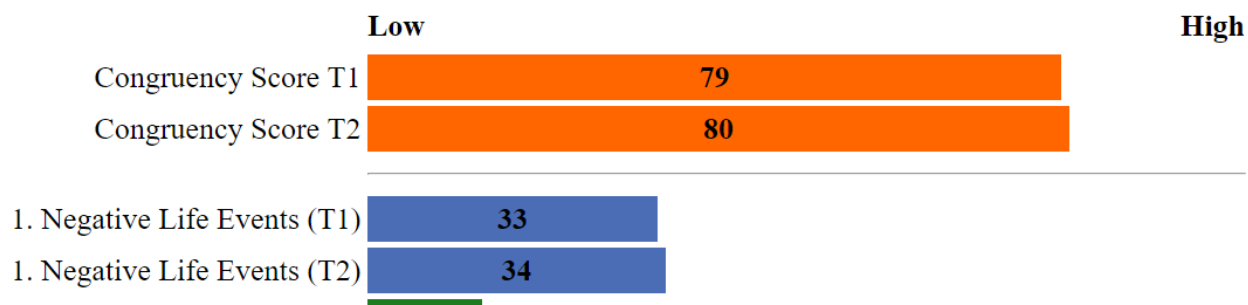
Lowest Optimal Profile

Aggregate Background-Domain: T1

Aggregate Background-Domain: T2

Aggregate Profile

N = 19



17のスケールを
・ 様々なグループ
・ 角度
から分析

8 グループレポートの例

3. Needs Fulfillment (Lowest T1) 23

3. Needs Fulfillment (Lowest T2) 30

3. Needs Fulfillment (Middle T1) 45

3. Needs Fulfillment (Middle T2) 32

3. Needs Fulfillment (Highest T1) 42

3. Needs Fulfillment (Highest T2) 68

広島大学START
T1/T2比較

4. Identity Diffusion (Lowest T1) 30

4. Identity Diffusion (Lowest T2) 21

- ・ 上位30%
- ・ 中位40%
- ・ 下位30%

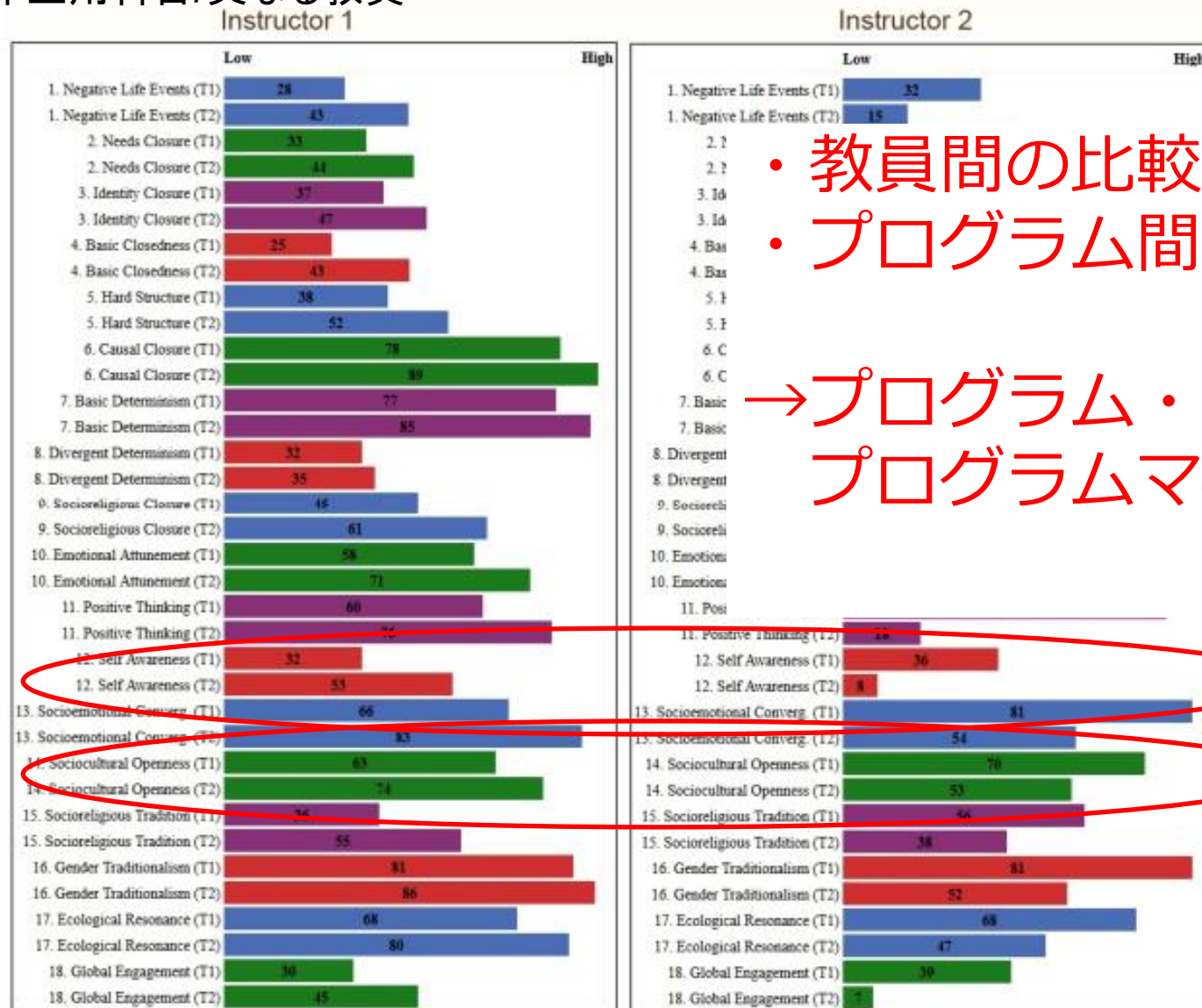
2週間の短期プログラムでも学生を変化させることは可能
ただし、

4. Identity Diffusion (Highest T1) 12

4. Identity Diffusion (Highest T2) 39

8 グループレポートの例

1年生用科目/異なる教員



・教員間の比較
・プログラム間の比較

→プログラム・教員の評価
プログラムマネジメント

Three BEVI Decile Profiles from Students in Different Countries/Regions

Country/Region 1

グループレポートの例

- ・グループ間の比較可能
- ・T1/T2比較可能
- ・分布の表示可能
- ・同じ教育内容で良いのか？

1. Negative Life Events	9%									
2. Needs Closure	30%									
3. Needs Fulfillment	0%									
4. Identity Diffusion	17%									
5. Basic Openness	13%									
6. Self Certitude	0%	4%	0%	9%	9%	17%	9%	17%	0%	35%
7. Basic Determinism	4%	17%	22%	13%	9%	9%	9%	4%	0%	13%
8. Socioemotional Convergence	0%	0%	17%	4%	9%	17%	0%	9%	26%	17%
9. Physical Resonance	0%	0%	0%	13%	4%	30%	0%	39%	13%	0%
10. Emotional Attunement	4%	4%	13%	13%	26%	9%	4%	13%	13%	0%
11. Self Awareness	0%	0%	0%	13%	9%	13%	9%	4%	30%	22%
12. Meaning Quest	0%	4%	17%	4%	0%	17%	4%	30%	0%	22%
13. Religious Traditionalism	0%	0%	4%	4%	0%	9%	17%	17%	17%	30%
14. Gender Traditionalism	13%	4%	13%	4%	13%	30%	0%	9%	0%	13%
15. Sociocultural Openness	0%	0%	0%	4%	4%	0%	0%	9%	26%	57%
16. Ecological Resonance	0%	4%	9%	0%	9%	13%	17%	9%	17%	22%
17. Global Resonance	0%	0%	4%	4%	0%	9%	17%	13%	39%	13%
Deciles:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

Three BEVI Decile Profiles from Students in Different Countries/Regions

Country/Region 3

1. Negative Life Events	17%	20%	13%	8%	6%	14%	3%	6%	9%	4%
2. Needs Closure	54%	15%	9%	7%	3%	3%	3%	3%	1%	1%
3. Needs Fulfillment	2%	2%	3%	7%	6%	11%	9%	20%	19%	22%
4. Identity Diffusion	36%	18%	17%	0%	11%	0%	0%	6%	3%	9%
5. Basic Openness	6%	8%	6%	11%	7%	11%	15%	8%	18%	12%
6. Self Certitude	12%	9%	10%	14%	9%	9%	9%	15%	6%	7%
7. Basic Determinism	20%	17%	19%	9%	8%	9%	7%	2%	5%	4%
8. Socioemotional Convergence	1%	4%	3%	5%	10%	7%	11%	14%	23%	23%
9. Physical Resonance	0%	0%	0%	1%	1%	5%	3%	13%	58%	20%
10. Emotional Attunement	6%	3%	7%	9%	8%	17%	9%	13%	18%	10%
11. Self Awareness	1%	0%	0%	1%	1%	3%	18%	8%	27%	42%
12. Meaning Quest	4%	2%	13%	8%	8%	10%	8%	20%	10%	14%
13. Religious Traditionalism	0%	25%	18%	6%	18%	8%	8%	8%	6%	4%
14. Gender Traditionalism	24%	15%	18%	5%	7%	9%	7%	6%	3%	5%
15. Sociocultural Openness	2%	3%	1%	3%	6%	6%	9%	13%	11%	46%
16. Ecological Resonance	5%	2%	6%	7%	15%	15%	11%	9%	8%	23%
17. Global Resonance	2%	5%	6%	8%	0%	7%	7%	13%	35%	17%
Deciles:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1. Negative Life Events	5%	18%	23%	0%	9%	23%	0%	9%	14%	0%
2. Needs Closure	32%	14%	5%	14%	9%	9%	14%	0%	0%	5%
3. Needs Fulfillment	5%	5%	18%	14%	9%	23%	9%	5%	5%	9%
4. Identity Diffusion	18%	18%	23%	0%	23%	0%	0%	9%	5%	5%
5. Basic Openness	0%	9%	0%	23%	5%	18%	14%	5%	14%	14%
6. Self Certitude	5%	27%	0%	23%	5%	9%	14%	0%	14%	5%
7. Basic Determinism	0%	5%	14%	5%	9%	14%	23%	14%	5%	14%
8. Socioemotional Convergence	14%	14%	5%	18%	14%	14%	0%	9%	5%	9%
9. Physical Resonance	0%	0%	0%	0%	5%	9%	9%	45%	23%	9%
10. Emotional Attunement	5%	9%	9%	18%	14%	18%	9%	5%	9%	5%
11. Self Awareness	0%	0%	0%	0%	5%	0%	32%	9%	23%	32%
12. Meaning Quest	14%	9%	18%	0%	23%	9%	14%	0%	5%	9%
13. Religious Traditionalism	5%	45%	18%	5%	23%	0%	5%	0%	0%	0%
14. Gender Traditionalism	9%	32%	18%	5%	5%	18%	0%	0%	5%	9%
15. Sociocultural Openness	5%	0%	0%	9%	14%	18%	32%	9%	5%	9%
16. Ecological Resonance	5%	9%	14%	5%	5%	41%	5%	0%	5%	14%
17. Global Resonance	0%	9%	9%	0%	0%	5%	27%	27%	18%	5%
Deciles:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1. Negative Life Events	5%	19%	21%	15%	12%	13%	6%	3%	6%	0%
2. Needs Closure	44%	22%	9%	14%	3%	4%	3%	3%	0%	0%
3. Needs Fulfillment	6%	17%	23%	13%	9%	13%	8%	10%	0%	1%
4. Identity Diffusion	15%	21%	23%	0%	24%	0%	0%	10%	6%	0%
5. Basic Openness	10%	3%	4%	19%	17%	14%	15%	12%	4%	3%
6. Self Certitude	8%	18%	15%	19%	8%	8%	6%	10%	3%	5%
7. Basic Determinism	1%	9%	8%	13%	6%	13%	3%	14%	24%	9%
8. Socioemotional Convergence	17%	21%	13%	19%	3%	15%	5%	5%	3%	0%
9. Physical Resonance	0%	0%	1%	1%	3%	13%	18%	32%	26%	6%
10. Emotional Attunement	0%	4%	8%	23%	13%	19%	14%	12%	5%	3%
11. Self Awareness	0%	0%	0%	5%	12%	6%	26%	8%	28%	15%
12. Meaning Quest	17%	6%	35%	8%	4%	5%	5%	6%	10%	4%
13. Religious Traditionalism	8%	12%	32%	31%	12%	5%	1%	0%	0%	0%
14. Gender Traditionalism	15%	22%	17%	13%	14%	10%	3%	5%	1%	0%
15. Sociocultural Openness	4%	8%	17%	10%	10%	19%	13%	4%	12%	4%
16. Ecological Resonance	5%	9%	18%	31%	14%	8%	6%	6%	3%	0%
17. Global Resonance	1%	8%	18%	13%	0%	9%	21%	10%	14%	6%
Deciles:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

AIMS
とSTART比較 (T1)